

文京区

BUNKYO GENDER EQUALITY CENTER

男女平等センターだより PARTNER

2019
No. 92

Topics

男女格差を考える

Contents

- 【特集1】すべての子どもに教育を実施して児童労働の撤廃を — 2,3
- 【特集2】再就職で50社落ちた私が見つけた、社会との関わり方 — 4,5
- 文京区男女平等センター講演会 — 6
- 男女共同参画週間記念講演会 — 7
- プラスワンセミナー I 「女性の働き方と格差」 — 8
- 夏休み親子企画 — 8
- プラスワンセミナー II 「女性と教育格差とは」 — 9
- UN Women（国連女性機関）日本事務所から — 10
- 文京区総務部総務課ダイバーシティ推進担当から — 11
- 第34回文京区男女平等センターまつり — 12

2019年8月30日発行

発行／文京区女性団体連絡会 会長 岡田伴子
〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号
TEL.03-3814-6159 FAX.03-5689-4534

文京区男女平等センターは
文京区女性団体連絡会（文女連）が
指定管理者として管理・運営しています。

すべての子どもに教育を実施して 児童労働の撤廃を

●堀内 光子さん（（公財）アジア女性交流・研究フォーラム理事長）

教育を受けることは、子どもの基本的権利である。教育は、個人の全人格的成長をもたらすものであると同時に、平和で健全な安定した世界を構築するための基礎となる。私は、児童労働（子どもが働くこと）をなくす活動に関わっており、その視点から子どもの教育の完全実施に強い関心がある。児童労働は子どもの教育の阻害要因であるとともに、教育は児童労働撤廃の有力な1戦略である。このことは、国連/国際労働機関（ILO）の児童労働関係2条約に明記されている。「就業の最低年齢条約」（第138号）では、就業の最低年齢は義務教育最低年齢を下回ってはならず、いかなる場合でも15歳を下回ってはならないと、就業が教育を妨げないように規定している。なお、軽易な労働については、13歳以上の就業が認められている。また、「最悪の形態の児童労働条約」（第182号）では、その前文で、効果的な児童労働撤廃には、無償の基礎教育及び家族の必要性に目を向けるべきことを指摘し、児童労働の大部分が貧困から生

ずるものであることから、長期的解決策として社会の進歩、貧困軽減及び普遍的教育をもたらす持続的経済成長を挙げている。

教育の権利に関しては、国際的には1990年にタイ・ジヨムティエンで開催された「すべての人々のための教育世界会議」で、「すべての人々に教育を（EFA）」という世界共通目標が樹立され、達成に向けてのコミットメントが合意された。現在の持続可能な開発目標（SDGs）の前身である、2000年からの「国連ミレニアム開発目標（MDGs）」では、目標2で普遍的初等教育の達成が掲げられ、目標3では、初等・中等教育におけるジェンダー平等をできれば2005年までに、全レベルのジェンダー平等を目標年2015年までの達成が掲げられた。この結果、女兒の就学率が向上し、世界の大多数の地域で初等教育の就学率では男女平等が達成された。しかし、中等教育以上では相変わらず男女格差が残っている。

さらに言えば、初等教育就学年齢の子どもたちの9%にあたる約6,300万人が学校に通っていない（2016年）。男女別には、男児が約2,900万人、女兒が約3,400万人と、女兒がやや多い。地域別には、サハラ以南アフリカ地域で子どもの約21%、約3,400万人が学校に通っていない、世界で最も高くなっている。続いて、北アフリカと中央アジア（11%）、オセアニア（7%）の順である。他方、児童労働をする子どもは、世界に1億5200万人も

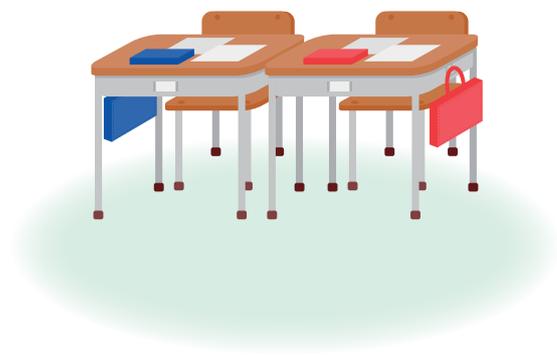


いる（2016年）。地域別には、サハラ以南アフリカ地域が数で7,200万人と最多で、子どもの5人に1人が児童労働をしている。しかも世界全体では減りつつあるのに、この地域だけは増加に転じている。産業別に見ると、農業に児童労働が圧倒的に多いが、紛争や自然災害の影響も大きい。児童労働者を男女別に見ると、男児の方が多く、女兒は家事労働者のように見えない形の労働も多く、過小評価の可能性もある。SDGsでは、児童労働は2025年までに全廃と、他の目標より5年早い達成目標を定めているので、今まで以上の努力が必要である。

教育を受けられない原因は、児童労働だけではない。家庭の貧困が子どもの教育に大きく影響しているが、広く学校に通うことができない理由として、①心身障害、②学校が遠隔にあるなど物理的困難さ、社会的障害や差別（少女、民族、カースト、階級、宗教など）、出生未登録、厳格な学校のスケジュール、学校や通学途中の暴力など、③費用負担—直接の学校費用のほか、制服、教科書、交通費、給食費等—④教育の質、インフラ・設備等、教師の不適切な労働条件・低い地位、教師の訓練不足、女性教師の不足、ドロップ・アウトの危険性の高い生徒への配慮欠如及び⑤不適切なカリキュラム（地元の言語、ニーズ、価値）や年上の年齢の子どもへの対応欠如、などが挙げられる。特に女兒には、次のような課題がある。①男児優先、女兒・少女への差別、②二重の差別（少数民

族・先住民等と女兒）③早婚、④家事負担など、である。

最後に、学校教育を進める具体的解決策を掲げて締めくくりたい。それには、①家族に補助金を支給して、子どもを就学できるようにすること、②仕事をしている子どものニーズに合わせるため、フレキシブルな学校制度の運営、③集中的な（キャッチ・アップ）コースを設け、働く子どもが逸した学習をフォロー可能にすること、④正規の学校への橋渡しのブリッジ・コースの運営及び⑤使用者の児童労働法遵守の監視、公式学校と同価値の非公式学級の実施と課外活動の実施、などがある。



再就職で50社落ちた私が見つけた、 社会との関わり方



●小林 コトミさん（シードハウス代表取締役）

再就職で50社落ちた小林コトミです。私は子どもが1歳のときに再就職活動を始めました。学校卒業後は、東京でITサポートデスクやプログラマなど主にIT業界で働いており、転職もすぐに決まり、正直「職」に困ったことはありませんでした。

再就職では、震災など何かあったときのために自宅まで帰れる距離にある会社で、週3、4日働ける事務・経理の仕事を探しました。

後になってわかったことですが、私の住んでいるエリアは事務・経理職を専用に雇える規模の企業が少なく、事務職は狭き門でした。今住んでいるエリアの就職状況や求められるスキルなどをもっと事前に知っておけばよかったと……毎日不採用の通知を見て肩をがっくり落としていました。段々どこにも採用されない自分の存在を否定するようになっていました。

さすがに50社近く落ちていると、事務職にこだわっている場合ではないと、職探しの範囲を広げました。そして職務経歴書も「HP作れます。企画書を作れます。」など事務職には関係ないかも？と思っていた前職のスキルを書くことにしました。すると面接に進める会社が出てきました。私が最終的に採用されたのは女性が代表の税理士事務所でした。

しばらくその事務所で働いていると代表から湘南ビジネスコンテストのチラシを渡されました。それまでビジネスコンテストという名前すら知ら

なかった私が、そんなのに受かるわけがない……と思いました。しかし応募書類の「なぜあなたはこのビジネスをやりたいのですか？」という質問を見て、毎日のように不採用通知がきて縮こまっている昔の私の姿が目につかびました。「私が再就職できなかつたように、働くことで悩んでいる女性のために何かしたい」と思いました。その想いをまとめて、プランとして発表。準大賞とナデシコ賞をいただきました。そして事務所を退職し、想いを実現するための活動を始めることにしました。

その後、ビジネスコンテストを通じて出会った仲間と学びのコンテンツを提供する株式会社Manabelleを設立。「学び+belle（フランス語でかわいいお嬢さん）」と名付けたのは、女性が「学び」によって未来の選択肢を広げてもらいたいという想いからです。私自身がITスキルをアピールして採用された経験から、プログラミングが学べるアプリ「codebelle（コードベル）」をリリース。AppStoreのBest of 2016の10選に選ばれ、米国本社の副社長にプレゼンする機会までいただきました。



Manabelleの創業メンバー

codebelleをリリースして「実生活の中でも学ぶ場所や経験を積む場が必要」ではないかと思うようになりました。そこで、既存の学習塾の代表と共に、大人と子どもが共に同じ場所で学べるコワーキングスペースをオープンしました。大人も、子どもも自分に必要な学びをしてもらいたい、学ぶためのスキルを身につけてほしいと「プロジェクト型学習塾」を運営する株式会社シードハウスを設立しました。ここでは、日々色々なプロジェクト活動が行われています。



ブルーコンパスでの女性起業支援

しかし、特に女性の起業が小粒になってしまう……ということに気がきました。そして、ビジネス業界はまだ男性社会で、女性の感性を活かしたビジネスが受け入れにくいのでは？と感じました。私も男性起業家に相談をした際には、「僕の妻は、働きたいなんて思っていないよ。」と言われたことがあります。

そこで、女性が男性社会の影響を受けず、成長できる場所として、同じ想いのある仲間と一緒に女性専用のコワーキングスペースを運営する株式会社ブルーコンパスを設立しました。ブルーコンパスでは女性起業家同士が繋がる場所の提供、コミュニティの支援を行っています。



私が娘とコワーキングで作業している様子

私は、女性が社会に出ようとするときに、二つの関わり方があると思います。それは、「参加」と「参画」です。「参加」はすでにある組織に入る、「参画」は一緒に新しいものを作る、という違いがあり、再就職で50社落ちたように私は社会に「参加」することが上手くできませんでした。しかし、「参画」する側に回ることで能力を発揮することができ、内閣府主催の女性のチャレンジ賞特別部門賞を受賞することができました。

私は、私と同じように、「参画」していきたい女性を支援したいと思っています。参画する女性が増えることで、既存の男性社会とのバランスが取れ、男性社会、女性社会それぞれが両輪となり、二つの車輪で協力をして世の中の経済を回していく、そういう世の中を目指していきたいと思っています。



シードハウスでのイベントの様子

文京区男女平等センター 講演会

私が見てきた世界の女性 ～国際協力の立場から～



●日時：2019年3月2日(土) 午後2時～4時

●講師：齋藤 文栄さん（UN Women（国連女性機関）日本事務所パートナーシップ専門官）

UN Women日本事務所で活躍されている齋藤さんは、大学を卒業して民間企業で3年間勤めた後アメリカに留学し、大学院を卒業したそうです。帰国後は7年間国会議員秘書を経験する中でNGOとの関わりをもち、その後は女性の視点から政策を提言していこうという複数のNGOや国連人口基金を経て、現在に至るとのこと。

今回は、SDGs、アドボカシー、ジェンダーやUN Womenの活動などについて話をいただきました。

●SDGsについて

2015年9月の国連総会で持続可能な開発目標17が決まり、それを元にさらに小さなターゲット169を設定して、193の国連に加盟している全ての国が取り組むことになりました。2015年以前はMDGsという主に発展途上国を対象とした目標8つのものがありましたがり残された課題も多く、その反省も踏まえてできたのがSDGsです。17の目標というのは、例えば極度の貧困と飢餓の撲滅、初等教育の完全普及の達成、ジェンダー平等と女性の地位の向上などです。

●アドボカシーについて

日本語でいうと政策提言活動のことで、NGOで働く人たちが政府やメディアに働きかけたり世論を喚起して、よりよい政策を作っていこうということです。成果の一例として、2015年に施行された配偶者暴力防止法があります。また、2016年の伊勢志摩サミットではいろいろな国のNGOとアドボカシーをした結果、成果文書に母子保健、女性のエンパワーメント、ジェンダー平等について明文化されました。このような活動をしているNGOですが、その国連での地位は日本で考えられるより非常に高く、最近ではNGOを対等なパートナーと認めて重要事項の決定等を一緒に進めています。



●ジェンダーについて

生まれながらの性別ではなく、社会的文化的に成型された性別ということです。例えば、昔話の「桃太郎」でおじいさんとおばあさんの行動が逆だった場合、違和感のない人がどれほどいるでしょうか。また、警察官という言葉から、まず女性をイメージする人は少ないのではないのでしょうか。それらのジェンダーを平等にするためには、エンパワーメントが必要だといわれています。

●UN Womenについて

文京区にある事務所は、世界に7つあるリエゾンオフィス（連携事務所）のひとつです。主に行っていることは、①女性の政治参画を進める等、女性のリーダーシップ推進、②難民キャンプ等で行っている女性の経済的エンパワーメント、③女性に対する暴力撤廃、④災害・紛争地域での女性支援、⑤国家の開発計画及び予算へのジェンダーの反映、の5つです。日本事務所では、ジェンダー平等という課題に対する意識の高揚、政府との連携等に日々取り組んでいます。

本日の講演会の結びとして齋藤さんは、私たちに大きな宿題を残してくれました。

「あなたにとって、自分らしく生きることを阻む壁って何でしょう。そして、その壁を打ち砕く技術（イノベーション）を使うための方法を、いろいろな革新的な方法を考えてください。」

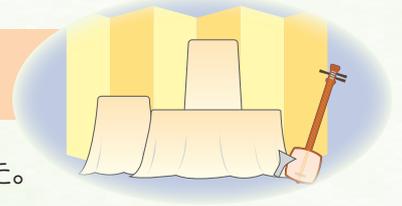
（田中ひとみ）

男女共同参画週間 記念講演会

ほとばしる浪花節 ～玉川奈々福浪曲会～

●日時：2019年6月16日(日) 午後2時～3時30分

●講師：玉川 奈々福さん(浪曲師・曲師) 沢村 豊子さん(曲師)



記念行事の一環として、浪曲会に旋風を巻き起こしている玉川奈々福さんによる「ほとばしる浪花節・玉川奈々福浪曲会」を開催いたしました。

拍子木の音が始まると、曲師(浪曲三味線)沢村豊子師匠と共に、艶やかな浅葱色の着物姿で登場されました。深堀隆介氏の描いた見事な金魚のテーブル掛けと相まって、一層華やかな会場になりました。

はじめに浪曲を初めて聞かれる方のために、浪曲のイロハについて説明があり、そして2001年より浪曲師になられた経緯を話されました。

玉川さんの公演で特徴的なのは、上座に三味線の曲師沢村豊子師匠が座られ「あうん」の呼吸で出弾きをされることです。通常曲師は衝立の影で見えないようにするそうです。これらの素晴らしい演出に拍手が湧き上がりました。

最初の演目は、伊達家に仕えた腕自慢夫婦の物語「仙台の鬼嫁」で、飲む・打つ・買うの三道楽の大好きな男に一目惚れした女性が夫を立派に鍛え直す演目でした。

玉川さんの大迫力に、微動だにしないで聞き惚れてしまう、女性の活躍で元気の出る素晴らしい内容でした。

2曲めは、「浪曲シンデレラ」で老若男女誰にでも受け入れられる作品として作られた、抱腹絶倒の作品でした。三味線での素晴らしいワルツも聞

くことができました。

最近は様々な浪曲のイベントのプロデュースや自作の新曲浪曲の制作、他ジャンルの芸能・音楽との交流等をされており、多方面で浪曲師のイメージを覆えされたおかげで、女性の浪曲師が増えてきているそうです。

平成30年度文化交流大使として、イタリアはじめ中央ヨーロッパ7カ国で公演を行い、各国で女性の活躍する場面で大受けするのはどの国も同じだと伺い納得いたしました。

会場は小学生からご家族連れまでの、男女共同参画週間らしく幅広い年齢層により満員御礼状態で「楽しかった」「元気をいただきました」「初めて浪曲を聴いて大ファンになりました」とたくさん感想をいただきました。

(千代和子)



男女共同参画週間・・・男女が互いにその人権を尊重しつつ喜びも責任も分かち合い、性別に関係なく、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を目指して、1999年6月23日に男女共同参画社会基本法が施行されました。この法の目的及び基本理念に関する国民の理解を深めるために毎年6月23日～29日の期間設けられました。



「女性の働き方と格差」 ～未来が変わる働き方～

●日時：2019年6月7日(金) 午後6時30分～8時
●講師：野村 浩子さん (ジャーナリスト・淑徳大学教授)

講師の野村さんは、編集長として日本初の女性リーダー向けの雑誌を創刊されました。現在は大学教授とジャーナリストとして教育研究と執筆活動をされています。

今回は今までの取材経験を踏まえて、働き方について3つのパートに分けてお話をしていただきました。

1、チャンスをつかむ5つのポイント 自分らしいキャリア・デザインを実現するために

- 1、偶然の出来事をチャンスにつなげる行動力がある。
- 2、主体的な柔軟性がある。
- 3、ピンチをチャンスに変える。
- 4、周りの人をサポーターにする。
- 5、自己投資をして、自分を磨く。



2、アンコンシャス・バイヤス (無意識の偏見) に気付く 家事・育児は女性の仕事という刷り込みを見直そう。

- 家事・育児を、パートナーや外部に頼むことは手抜きではない。
- ワークライフバランスは、個人単位ではなくカップル単位で考える

3、人生100年キャリアのポイントとは、生涯持ち続ける柔軟な心で過去の成功にとらわれず変わる勇気、捨てる勇気で次なる道を拓く。 自分の強みをオープンに、シェアすることが将来への布石となる。

- 参加者からは、以下のような感想をいただきました。
- ◆年齢や家庭の事情に負けず、柔軟な気持ちで新たな生き方を探していく女性のお話を伺って前向きな気持ちになりました。
 - ◆今後のキャリア形成する上でのアドバイスをいただきました。

(吉野文江)

夏休み親子企画 お父さんと料理の基本を学ぶ

パパッとクッキング

●日時：2019年8月3日(土)・4日(日) 午前10時～午後1時
●講師：古川 協子さん (料理研究家・栄養士)

献立

1. 枝豆ごはん
2. アカモクのみそ汁
3. 和風しゅうまい
4. 卵とトマトのいため物
5. 牛乳かん



猛暑が続く8月最初の週末に開催されたこの企画に、今年は2日間で20組、計40人の親子が参加しました。

まず、講師の古川先生から環境問題に配慮した食材の選び方や、小口切りやさいの目切り、くし形切り等、それぞれの食材に合わせた切り方を教えていただきました。次に、本日の料理の手順を教えてください、いよいよ調理開始です。



子どもたちは包丁を使ったことがあるようで、切るときには食材を押さえる手は「ねこの手」にすることをちゃんと知っていました。子どもが包丁を使うときはお父さんが後ろで見守っていました。しゅうまいの餡

をこねるのは子ども、みそ汁を作るのはお父さんと分担して5品の調理に取り組みました。

緑が鮮やかな枝豆ごはん、甘くて冷たい牛乳かん等、自分たちで作った料理をとってもうれしそうに食べていました。もちろん、食べ終わった食器の後片付けまでしっかりやっていました。

(久保田なつき)

〈参加者の感想〉

- ◆ たのしくおりょうりできました。
- ◆ 初めての経験でしたが、美味しく楽しい時間になりました。
また参加させていただきたいです。
- ◆ もっとつくりたかった。
- ◆ 楽しかったです。子どももいい勉強になりました。

「女性と教育格差とは」 ～教育は平等のはず、教育格差なんてあるの～

- 日時：2019年7月6日(土) 午後2時～3時30分
- 講師：今井 桂子さん (中央大学理工学部教授)

7月に開催されたプラスワンセミナーⅡでは定員30名の会場が満杯になり、10代から80代まで親子連れや男性の参加があり、教育に関心がよせられていることが伺われました。

本来、教育は平等に受ける権利が保障されているはずですが、男女格差があるために日本は国際レベルで64位に甘んじています。理工系の進学率と研究者・技術者数に大きな男女差があることが要因の一つになっています。

そこで、理系女性研究者の先駆者である今井桂子先生(中央大学理工学部教授・中央大学高等学校校長)をお招きして、14年前から活動を開始している女子理系進路選択支援活動のとりくみなどをお話しいただきました。

やっぱり隠れていた無意識の偏見 (アンコンシャス・バイアス)

「女性が理工系なんて・・・」という教師や親の言葉の裏にあるアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)が問題です。残念ながら、進路指導の教師でも、理工系の楽しさや卒業後の仕事、研究などを理解していません。従順な生徒は教師や親が反対するならやめようとなる。固定観念が進学率を下げています。

私が研究室に入った時代は初の女性研究助手でした。妊娠出産に際しても協約がなく大学の事務職員の協約を参考にしました。次に続く後輩のために“女性は使い物にならない”と思われたくない一心で、より一層働いた気がします。その姿を見ていた現在23歳の息子は積極的に家事を手伝う優しい人になりました。

内閣府男女共同参画局の支援を受けて2005年

第1回「女子高校生夏の学校」を国立女性教育



会館で開催。翌年には中学3年生も含め、女子大学生、大学院生がティーチングアシスタントとして企画運営を補助。男子学生も応援に加わり、2倍の応募者の中から選出された100名が2泊3日の体験学習をし成果を出しています。

これまで公的助成金の支援を受けてきた事業から自主的な財源によるより幅広い活動を継続する目的で「NPO法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト」を2018年に設立しました。

理工系進学をめざす中高生が将来社会において科学技術に貢献する人材になることを願い、様々な団体に支援を求めています。

参加者からは、

- 今回のセミナーはとても自分に近く、ちょうど自分も大学選択をどうしたらよいか悩んでいたの、自分と重ねて聞かせていただきとても刺激的でした。こんなにも(大きく言えば)自分たちのことを考えてくださっている友がいると思うと自分のやりたいことを見つけて大学選択をしていこうと思いました。(10代)
 - 私の経歴(技術研究者)にぴったりの内容でうれしかったです。理系の女性がどんどん増えることを期待しています。(80代)
- という感想がいただきました。

(岩井久江)

「HeForShe プラスワン！」 イベントを開催

●日時：2019年6月30日(日) 午後2時～4時10分 ●会場：国連大学 ウ・タント国際会議場

UN Women プムズイレ・ムランボ＝ヌカカ事務局長来日記念イベント、「HeForShe プラスワン！」を開催しました。HeForSheは、ジェンダー平等の実現に向けて、活動の輪を広げる運動です。このイベントでは、より多くの方に参加してもらえるよう、登壇者及びイベントの参加者に対して、友人、同僚、ご家族など、もう一人のゲスト（プラスワンゲスト）を連れてきていただくよう呼びかけました。本イベントに、成澤廣修・文京区長も登壇され、文京区におけるジェンダー平等に向けた取組などをご紹介いただき、スポーツ界から特別なプラスワンゲストをお招きいただきました。



▲UN Women ムランボ＝ヌカカ事務局長

このイベントは、日本テレビの小西美穂キャスター・解説委員による司会の下、オープニングアクトとして早稲田大学の男子チアリーディングチーム「SHOCKERS」

による力強いパフォーマンスで会場を盛り上げ、「チアリーディングは女子がやるもの」というジェンダーの固定概念を覆しました。次に、「日本の若者 HeForSheトーク」と題し、Y20サミット2019事務局の徳永勇樹議長と、東京大学医学部3年／東京大学 UNiTeの横山果南さんが、それぞれの立場からジェンダー問題についてお話ししました。ムランボ＝ヌカカ事務局長からは、「各時代の若者には使命がある。私の世代の若者の使命はアパルトヘイトを撤廃し、人種差別をなくすこと。当時はそんなことは無理にも思えたけれど、あきらめずに活動を続けたら実現した。あなた方の世代の使命は、ジェンダー不平等とホモフォビア（同性愛嫌悪）を撲滅すること。あきらめずに活動を続けてほしい」とメッセージが送られました。「企業と学生によるHeForSheの取組」では、株式会社資生堂の取締役・



常務及びチーフピープルオフィサー兼チーフソーシャルバリュークリエーションオフィサーである青木淳氏と名古屋大学HeForSheクラブの学生代表2名が登壇し、企業や大学で行っているHeForSheへの取組を紹介しました。最後に、「HeForShe プラスワン！ゲスト説得劇場」において、成澤区長、PwC Japanの木村浩一郎グループ代表、そして名古屋大学松尾清一総長に、それぞれプラスワンゲストの方々と共に登壇いただきました。成澤区長は「私は今まで文京区内でロールモデルを演じてきた。しかし、文京区だけではなく、日本中、世界中にHeForSheを広めていくためには、新たなロールモデルを作っていく必要があると感じている。今回は、文京区内から日本サッカー協会の会長をお連れした。」と公益財団法人日本サッカー協会・田嶋幸三会長を紹介されました。田嶋会長の賛同表明を得て、スポーツ界から力強いHeForShe賛同者が誕生しました。

皆さんは、HeForSheの賛同者ですか？ジェンダー平等の実現に貢献していきませんか？是非QRコード先にあるウェブサイトから賛同を表明してみてください。賛同済みの方は、SNSなどを通して周りの方々にぜひ広めてください。この表明は終わりではなく始まりです。HeForSheの輪を広げて、ジェンダー平等に向けて一緒に歩んでいきましょう！



▲早稲田大学男子チアリーディングチーム「SHOCKERS」

女性再就職支援セミナーと個別相談会

日時：2019年5月23日(木) 午前10時～12時
 講師：錦戸 かおりさん (国家資格キャリアコンサルタント
 2級キャリア・コンサルティング技能士)
 会場：男女平等センター 研修室A ※託児実施
 主催：公益財団法人東京しごと財団 共催：文京区

働きたい気持ちはあっても、なかなか一歩が出ない。そんな女性をサポートする「東京しごとセンター女性しごと応援テラス」が、再就職を目指す方を対象に支援セミナーを開催しました。



セミナーでは、自分を知り、自分の幸せを大事にしなが、社会の変化に対応して自分を育てていこうとお話がありました。参加者は、自分が働く上で大切にしたいことや、そのために自分をどう育てるかをワークシートに記入し、グループでその内容について話し合いました。話し合いはどのグループも大変盛り上がり、自分についてより深く知るきっかけとなりました。

希望者には専門のキャリアカウンセラーによる個別相談会が行われ、家庭と仕事の両立や、就職活動での悩みなど、それぞれが抱える不安についてアドバイスがありました。

参加者からは、「自分だけが迷っているのではないと知ることができた」、「誰にでも強みはあるんだ!と思った」「もっと自分のことを知ろう、楽しく生きようと思うことができた」との声が寄せられました。

中高生のための未来ワークショップ

～SNS炎上?男らしさ、女らしさ。わかったつもり、それって本当?～

日時：2019年7月28日(日)、8月25日(日)、
 9月29日(日) 午後1時30分～4時30分
 講師：狩野みきさん(慶應義塾大学講師)
 小野美智代さん(公益財団法人ジョイセフCSPグループ長)
 会場：男女平等センター 研修室B
 共催：文京区、女性団体連絡会
 協力：Global Moms Network/IWCJ

中学生・高校生世代を対象とした「未来ワークショップ」。7月に第1回「メディアからの情報、わかったつもりになってない?」を行いました。

狩野さんの講義では、絵本「あらしのよるに」の、本文に描かれていないその場面の季節や登場人物の性別についてグループごとに考えました。分かったつもりになっていても実は分かっていないことがたくさんあり、様々な情報について鵜呑みにせず疑いを持って読まなければならない、というお話がありました。

小野さんの講義では、中高生の9割がインターネットを利用しているが、一度載った情報は世界中に公開され取り消せないというリスクがあり、インターネットを通じた中高生の性犯罪被害が多いという現状をご説明いただきました。

参加者からは、「ネットの怖さが分かった」「自分に流れて来る情報をよく考えて見極められるようにしたい」といった感想が寄せられました。

第2回は「アートとジェンダー」第3回は「世界と自分」がテーマです。1回だけの参加も可能ですので、興味のある方はぜひご参加ください。



カラーリボンフェスタ

日時：2019年7月30日(火)～7月31日(水)まで
 午前10時～午後6時 (2日目は午後3時まで)
 会場：文京シビックセンター1階 ギャラリーシビック

アウェアネス・リボンは、世界各地及び国内で、社会運動や社会問題に対して、さりげない支援や賛同の声明を出す方法として用いられています。様々なリボン運動の活動を知り、賛同・支援という行動につながるよう、11種類のリボン運動を一堂に会した展示会を行いました。

来場者は、パネル等の掲示やパンフレットで各団体が取り組む活動を学んだほか、リボンのチャリティーグッズを購入して活動を支援したり、ギャラリートークで各団体の担当者からの話を直接聞きました。カラーリボンの内容についてのクイズには多くの来場者が挑戦し、カラーリボンについて楽しんで知っていただきました。

また、真砂中央図書館の協力による大型絵本読み聞かせ会にはお子さんをはじめ幅広い年代の方が集まり、カラーリボンにちなんだ絵本を通じて人権問題を学ぶことができました。



文京区人権と音楽講座2019

第一回 青島広志の音楽から人権を考えてみよう!

日時：2019年7月11日(木)午後6時30分～8時30分
 会場：文京シビックホール小ホール

テレビでおなじみの青島広志さんと、歌手の横山美奈さん、小野勉さんをお招きし、人権問題にまつわる曲の演奏と楽しいおしゃべりを織り交ぜたコンサートを行いました。人権について性別や人種、戦争、障害等、多様な切り口から軽快にお話しいただきました。曲目もオペラの名曲から親しみ深い日本の歌曲まで幅広く、美しいピアノとソプラノ、テノールに会場が引き込まれました。

来場者からは「普段なかなか考えることのないテーマについて、青島さんのトークと演奏で興味を持って



▲左から青島さん、横山さん、小野さん

聴くことができました」「心豊かに人権のことを学べた」「音楽を聴く時、歌う時もっと深く考えるようになると思う」といった感想が寄せられました。

第34回 文京区男女平等センターまつり

入場無料

～きのう きょう あしたへ～

「平等へ 時計の針を進めよう」

2019年 10月26日(土)・27日(日) 開催時間 午前9時30分～午後5時

※日曜は午後4時30分終了

▶ 10月26日(土)
午後1時20分～2時50分

まつりシネマ

人生フルーツ *Life is Fruit*

© 東海テレビ放送

～ある建築家夫婦の物語・
人生の豊かさとは・……～
「家は、暮らしの
宝石箱でなければいけない」
巨匠ル・コルビュジェの言葉より



© 東海テレビ放送

バリアフリー日本語字幕つきで上映
(本編91分)

▶ 10月26日(土)
午後3時45分～4時45分

まつりコンサート

口笛とウクレレの
弾き吹きコンサート

口笛奏者

分山 貴美子 さん



第34回国際口笛大会
女子の部総合優勝 **日本人初**

*鳥のようにさえずる口笛と
ウクレレの弾き吹きコンサート

▶ 10月27日(日) 整理券配布
12時～
午後2時～3時30分

まつり講演会

～「男女平等はどこまで
進んだか?!」～

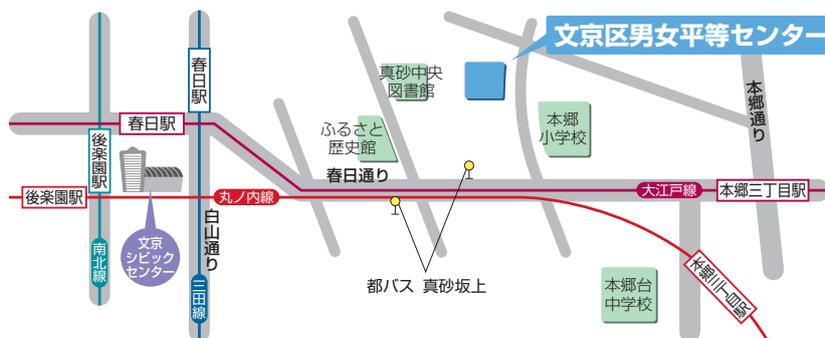
講師

上野 千鶴子 さん



社会学者・東京大学名誉教授・
認定NPOウイメンズアクション
ネットワーク (WAN) 理事長

絵本の読み聞かせ、バルーンアートなど、
親子で楽しめる企画もたくさんあります!!



都営バス

真砂坂上下車 徒歩3分

三田線

春日駅下車 徒歩7分

大江戸線

本郷三丁目駅下車 徒歩5分

丸の内線

本郷三丁目駅下車 徒歩5分

南北線

後樂園駅下車 徒歩10分

お問い合わせ先

文京区男女平等センター 〒113-0033 文京区本郷4-8-3

TEL. 03-3814-6159/FAX. 03-5689-4534 <http://www.bunkyo-danjo.jp/>

編集後記

男女ともにより自分らしく生きられる社会を目指して、今年度のテーマを「ジェンダー平等達成のために～だれをもおきざりにしない～」とし、第1弾として号は「教育」と「仕事」を取り上げました。みなさまのご意見をお待ちしています。
(広報部：田中・新島・根尾・増田)